InnovationS-i

2016年12月28日（ 水 ）　　フジサンケイビジネスアイ

Topic corner

西武信用金庫、桜美林大学が包括的連携・協力協定を締結

地域の活性化、産業の振興に専門知識を活用

西武信用金庫（東京都中野区）と桜美林大学は22日、「地域の活性化と産業の振興を図るため相互に協力し、地域社会の発展に寄与すること」を掲げ、包括的連携・協力協定を締結した。

桜美林大学の学長室で調印式が行われ、西武信用金庫・落合寛司理事長と同大学・三谷高康学長が調印文書に署名を交わした。

連携の目的として、「お互いの専門的な知識を活用し、地域・事業者の課題解決、地域活性化等に貢献する」ことを掲げる。

主な連携内容は、①インターンシップを通じた就業学習支援による中小企業等の新規採用機会を提供する②中小企業支援、街づくり支援、生涯学習支援等を実施することによる地域の活性化③イメージアイデンティティー（地域イベントなどの企画や実施）支援の実施による地域の活性化―など。

桜美林大学・三谷学長は、「西武信用金庫さんは地域の発展のため、さまざまな種まきをしておられる。そこからは数多くの企業が育っている。これからの日本には起業家が求められる。西武信用金庫さんと連携し、当大学はそういった人材の輩出に努める」と語った。

西武信用金庫・落合理事長は、「桜美林大学さんはチャレンジ精神を大切にする校風だという印象を受けた。柔軟な考え方は、変革の時代に必要で、これからの時代に求められる。桜美林大学との提携により、金融機関として町づくりへの貢献を目指す」と述べた。

西武信用金庫・落合寛司理事長（右）と桜美林大学・三谷高康学長